

株式情報

株式の状況

発行可能株式総数

120,000,000株

発行済株式総数

31,931,900株

株主数

17,880名

株式の所有者別状況

	2023年8月31日現在		2024年8月31日現在		2025年8月31日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	9	1,867	9	2,405	9	5,235
外国人	20	18,079	20	13,000	20	13,300
金融機関	5	697,786	3	421,914	2	343,014
その他国内法人	87	16,545,210	91	17,946,464	92	17,945,964
個人・その他	15,518	13,616,476	16,702	12,517,329	17,756	12,613,878
自己名義株式	1	1,052,482	1	1,030,788	1	1,010,509
合計	15,640	31,931,900	16,826	31,931,900	17,880	31,931,900

※基準日時点の株主名簿に基づき記載しております。

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から6月30日	公告の方法	電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
定時株主総会	毎年11月	公告掲載URL	https://www.joyfull.co.jp/
基準日	定時株主総会の議決権／毎年8月31日	上場取引所	福岡証券取引所
	期末配当金／毎年8月31日	○住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について	株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。
	中間配当金／毎年2月末（中間配当を実施する場合）	なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行㈱にお申し出ください。	
単元株式数	100株	○株主総会資料の電子提供制度（書面交付請求）についてのお問い合わせ	お取引の証券会社または三井住友信託銀行㈱へお問い合わせ願います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	専用コールセンター 0120-533-600 受付時間：9:00～17:00	（土・日・祝日および12/31～1/3を除く）
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
郵便物送付先	〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号		
（電話照会先）	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031（フリーダイヤル）		
	取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。		

会社概要（2025年6月30日現在）

創業	1965年6月	資本金	1億円
創立	1976年5月	主な事業内容	「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開
社名	株式会社ジョイフル		
本社	大分県大分市三川新町1丁目1番45号		
福岡工場・配送センター	福岡県築上郡築上町日奈古186番1号		
熊本工場・配送センター	熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445番4号		
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号		

(連結子会社)
 株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社フレンドリー/台灣珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス/株式会社ジョイナス/株式会社ジョイフル商事

BUSINESS REPORT

第51期通期事業報告書

2024年7月1日～2025年6月30日

経営理念

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、顧客・株主・従業員・取引先・社会の、精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

ジョイフル 店員の誓い

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに第51期（2025年6月期）の通期事業報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費において持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復傾向にありますが、エネルギー価格や原材料価格の高騰、為替相場における円安の長期化、中国経済の減速懸念、ウクライナ情勢の長期化、通商政策などアメリカの政策動向による影響など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食業界においては、個人消費やインバウンド消費は増加傾向にありますが、昨今の米の価格の高騰や、エネルギー価格、人件費、原材料価格の上昇など、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは今後の中長期的な成長戦略を実現するため、既存のイートイン事業はもちろんのこと、テイクアウトやデリバリー販売、量販店や通販サイトを通じた販売の強化、社員独立フランチャイズ店舗の拡大など子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

商品施策では、既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に、試験販売を繰り返してお客様の消費動向を慎重に分析した上で、グランドメニューの改定を2回、「創業祭」「美味しい!!夏めし到来」などのフェアを7回行いました。

グランドメニューの改定では、5種類のチーズで美味しさUPした「5種チーズのとろ~りチーズインハンバーグ」、博多明太子を使用した「明太子をたっぷり使ったスパゲティ（食卓のやまや明太子使用）」、ジョイフル初の正統派そば「野菜かき揚げのぶっかけおろしそばと釜揚げしらす丼」をメインに、お得にお腹いっぱいになれる倍盛りメニューーやパフェを中心としたデザートメニューの充実、またランチではコストパフォーマンスの高い7つの新メニューを用意し、健康志向の方には野菜とんぱく質が摂れるメニューなど、バラエティに富んだメニューを加えました。創業祭では、ジョイフル定番のミックスグリルがさらに大増量で楽しめる「どど~ん!っと大きなミックスグリル」、グリルメニュー・セットメニュー・デザートメニューから自由に組み合わせが楽しめるお得なセット「創業祭選べる得々セット」、人気のチーズケーキが創業祭だけの、ほろ苦モカフレーバーの大人味として変身する「JillさんのN.Y.チーズケーキ(モカ風味)」といったお客様への日頃の感謝の気持ちを込めた商品を揃えました。

さらに、8月にPEANUTSとのコラボレーションメニュー第2弾を販売したほか、冬には人気アニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションを2回にわたり行い、「竈門炭治郎（かまとたんじろう）の炭焼きソースハンバーグコンボ」「蟲柱胡蝶（むしばしらこちょう）しのぶの藤色蝶々パフェ」などの商品を販売し、累計100万食を達成しました。また、4月からはTVアニメ「SPYxFAMILY」との「ロイドのスパイグリーンハンバーグプレート」をは

じめとしたコラボレーションメニューを販売しました。

営業施策では、重点的な取り組みとして、料理のクオリティー維持・向上を目的に作業チェックシートを活用してひとつひとつの作業の徹底を行い、良い品質で、見た目にもきれいで、鮮度の良いおいしい料理を安定的に提供できるように努めてまいりました。

また、販売促進として、各種コラボレーションTVCやジョイフル宣伝部長の秋山竜次さん（ロバート）が出演する新TVC「春のJOY-1グランプリ」等を放映しました。さらに、7月には首都圏のお客様に向け、「美味しいくて楽しいジョイフル」をご体験いただくために、渋谷PARCOに期間限定でPOP UPストアをオープンしました。3月には大好評いただいている今期2回目となる一般のお客様やマスコミを対象とした新商品試食会&福岡工場見学ツアーの体験イベントを開催し、世界にひとつだけのオリジナルパフェ作りや、製造・配送の様子を見ることができる工場見学を行いました。6月には子育て世帯に向けた「キッズ半額キャンペーン」を実施しました。また、店頭でのQRコード決済を全店に導入し、更なるお客様の利便性の向上を図っております。

当連結会計年度における店舗数は、グループ直営店8店舗の出店、グループ直営店3店舗の退店により661店舗となりました。また、グループ直営からフランチャイズへ65店舗転換及びフランチャイズからグループ直営へ1店舗転換を行ったことにより、グループ直営456店舗、FC205店舗となりました。

以上の取り組みを行った結果、当連結会計年度における経営成績は、売上高は69,551百万円（前期比5.4%増）、営業利益は3,202百万円（前期比18.6%減）、経常利益は3,216百万円（前期比17.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,299百万円（前期比30.7%減）となりました。

なお経営指標としている「総資本経常利益率」「売上高経常利益率」「労働生産性」及び「株主資本当期純利益率」の数値改善のため、より一層の経営努力に努めてまいります。

※QRコードは株テンソーウェーブの登録商標です。

代表取締役社長

に見くらみ

グループ店舗一覧 (2025年6月末現在)

661 店

うちFC店舗205店舗 ※()内はFC店舗
※新業態・台湾含む

九州・沖縄エリア

333 店

※新業態店舗を含む

【ジョイフル 327店】

福岡 96(25) 大分 47(22)
佐賀 22(8) 宮崎 36(6)
長崎 22(21) 鹿児島 52(20)
熊本 45(14) 沖縄 7(7)

中国エリア

83 店

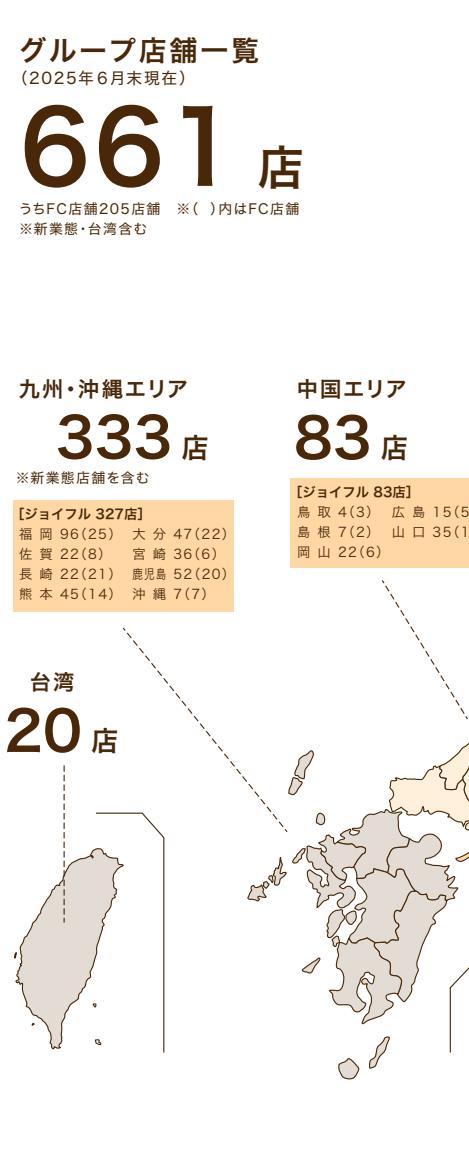
※新業態店舗を含む

【ジョイフル 83店】

鳥取 4(3) 広島 15(5)
島根 7(2) 山口 35(11)
岡山 22(6)

台湾

20 店





※商品イメージ写真（販売終了および実際に店舗で提供される盛付けとは異なる場合がございます）

2025年6月期 主な取り組み

大 人気アニメとのコラボレーションやユーザーの利便性向上と 体験価値を提供し、顧客ロイヤルティの向上に努めました

大人気アニメ「鬼滅の刃」とのコラボキャンペーンにて、アニメの世界観溢れる13種類のメニューの販売を行い、累計販売数100万食を突破することができました。

販売期間中は多くのお客様にご利用いただき、SNSではメニュー画像の投稿や、歓喜の声などもあがり、大変ご好評をいただきました。



© 吾峠呼世晴／集英社・アニプレックス・ufotable

店頭での新たなお支払い方法としてQRコード決済の「PayPay」「楽天Pay」「d払い」「au PAY」「メルPay」「ALI PAY」「WeChat Pay」の取り扱いを開始、2025年春に全店導入が完了しました。今後もお客様の利便性向上に繋がるよう、各種ニーズに柔軟に対応してまいります。
※一部QRコード決済が使用できない店舗がございます



QRコードは株テンソーウェーブの登録商標です。

「新商品試食会＆工場見学イベント」におきましては、お客様からの「各地での開催希望の声」にお応えして、それまでの福岡工場での実施に加え、九州の4店舗（大分県/宮崎県/熊本県/鹿児島県）で「新商品試食会」を実施しました。

参加チケットは毎回完売となり、老若男女問わず多くの方にご参加いただき、大盛況のイベントになりました。



社員独立フランチャイズ制度の広がり

ジョイフルでは勤務する社員の新たな働き方の一つとして、自身が積み重ねた店舗経営ノウハウを活かして、希望地域で加盟店代表者として独立することができる社員独立フランチャイズ制度を2022年8月より開始いたしました。2025年6月30日現在で、156名（161店舗）が加盟店代表者として独立・開業しております。

社員独立フランチャイズ制度を実施することで、加盟店代表者から本部にロイヤリティが支払われ、本部の安定的な経営が実現できるとともに、加盟店代表者は今までの店舗経営を活かしつつ、転勤のない希望地域で開業することが可能となります。また、もともと営業している店舗を使って開業を行うことで、精度の高い事業計画と本部からの全面バックアップのもとに営業に注力することができます。

今後約5年で当社店舗の約70%のフランチャイズ化を目指し、『店舗・本部の収益アップ=加盟店代表者の収入アップ』を達成するという、新たな働き方の実現を進めてまいります。

■社員の働き方イメージ



フランチャイズシステムとは

フランチャイズとは、フランチャイズに加盟する人（加盟店代表者）がフランチャイズ本部（ジョイフル）から店舗・サービス・商品などを使う権利を得て、店舗の経営・運営を行うものです。

●加盟店代表者と本部がビジネスパートナーとして一体となり、共同で収益を上げることで、双方に利益がある関係を築きます。

●加盟店代表者は本部の全面バックアップを受け、収益向上に専念できることで収益の一部をロイヤリティとして本部に支払っていただくビジネスモデルとなります。



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なる場合がございます）

2026年6月期 上期の主な取り組み

デジタル施策や体験イベントの拡充など 顧客接点強化や話題性の高い季節メニューを展開

次世代の消費を担うZ世代へのアプローチ策として、2025年7月には新たに「TikTok」の公式アカウントを立ち上げ、情報発信を続けています。

体験イベントとして人気を博している「店舗での新商品の試食会」においては、開催エリアを拡充。前回の九州4ヶ所から2025年9月には、関東・東海エリア店舗が加わり、全国7ヶ所での開催となりました。工場見学も高いご支持をいただき、開催継続中です。

季節メニューにおきましては、夏フェアは食欲そそるスタミナ系から涼を味わうメニューを取り揃え、秋は、濃厚チーズがあふれるハンバーグやパエリアなど食欲の秋に相応しいメニューが登場しました。

今後も、多角的な施策の展開とニーズに合わせた商品開発を行い、売上高確保に努めて参ります。



S DGsへの取り組みー食の楽しさと感動を届けて笑顔あふれる未来へ

ジョイフルのマテリアリティ



ジョイフルでは、持続可能な社会の実現への取り組みとして、大分市のフードバンク事業者「フードバンク東九州」様へ、従業員が家庭から持ち寄った食材を寄付しています。寄付した食材は、必要とされている方や福祉施設に無償で提供されます。

また、ジョイフルでは、子ども食堂事業や子ども支援活動も継続して行っております。

現代社会において人ととのつながりが希薄になりつつある中、当社は、未来を担う子どもたちに対し、地域住民との共食の機会を提供する取り組みを行っています。この活動を通じて、子どもたちの豊かな人格形成を支援するとともに、新たな地域コミュニティの構築にも寄与しています。また、賞味期限が近づいた食材などを子ども食堂等に提供することで、フードロスの削減にもつなげています。

その他に、働きやすい職場環境づくりを推進することで、モチベーションの向上、労働生産性の向上、組織の活性化に繋がると考え、2020年から健康経営実施における目標を定め、「健康増進、生活習慣病予防対策」「メンタルヘルス対策」などを進めた結果、2021年3月より毎年「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されております。

2018年に認定された「くるみん」は、子育てサポート企業としての実績が認められ、毎年認定交付をされております。継続して実施しているプラスチック製ストローの提供廃止、バイオマス材料を配合したテイクアウト用袋の導入などのサービスや事業活動を通じて、今後も環境保全と社会の発展のため、取り組みを進めてまいります。

新店オープン 〈海外〉 ■台湾ジョイフル 宜蘭家樂福店
高雄大樂店
新店碧潭店



連結財務諸表

Point

資産の部

当連結会計年度末の総資産は31,618百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,196百万円の増加となりました。これは主に、有価証券の減少1,750百万円、建物及び構築物の増加1,345百万円、投資有価証券の増加947百万円、繰延税金資産の減少488百万円、売掛金の増加390百万円、原材料及び貯蔵品の増加376百万円、工具、器具及び備品の増加206百万円、建設仮勘定の増加155百万円によるものであります。

Point

純資産の部

当連結会計年度末における純資産は12,403百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,975百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加1,990百万円、その他有価証券評価差額金の減少40百万円によるものであります。

Point

営業利益・経常利益

営業利益は、前期比18.6%減の3,202百万円となりました。経常利益は前期比17.8%減の3,216百万円となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当連結会計年度 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産	7,006	6,175
固定資産	23,416	25,443
有形固定資産	19,010	20,602
無形固定資産	362	392
投資その他の資産	4,043	4,448
資産合計	30,422	31,618
負債の部		
流動負債	10,079	10,891
固定負債	9,915	8,324
負債合計	19,994	19,215
純資産の部		
株主資本	10,214	12,226
資本金	100	100
資本剰余金	4,237	4,229
利益剰余金	7,417	9,407
自己株式	△ 1,540	△ 1,510
その他の包括利益累計額	128	85
純資産合計	10,427	12,403
負債純資産合計	30,422	31,618

Point

負債の部

当連結会計年度末の負債合計は19,215百万円となり、前連結会計年度末に比べ778百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少1,414百万円、短期借入金の増加1,280百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少864百万円、未払金の増加635百万円、未払消費税等の減少560百万円、買掛金の増加312百万円、リース債務の減少146百万円によるものであります。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 自 2023年7月1日 至 2024年6月30日	当連結会計年度 自 2024年7月1日 至 2025年6月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	6,166	3,717
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,894	△ 3,954
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,024	△ 1,445
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,271	△ 1,697
現金及び現金同等物の 期首残高	2,204	3,476
現金及び現金同等物の 期末残高	3,476	1,779

Point

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前期比2,449百万円減少して3,717百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、税金等調整前当期純利益2,981百万円、減価償却費1,776百万円、棚卸資産の増減額△408百万円、未払又は未収消費税等の増減額△666百万円であります。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

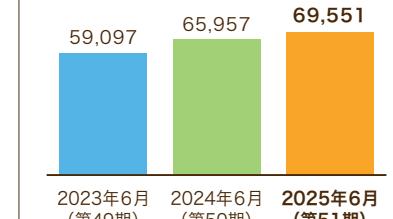
	前連結会計年度 自 2023年7月1日 至 2024年6月30日	当連結会計年度 自 2024年7月1日 至 2025年6月30日
売上高	65,957	69,551
売上原価	22,068	26,255
売上総利益	43,889	43,295
販売費及び一般管理費	39,953	40,092
営業利益	3,936	3,202
営業外収益合計	200	229
営業外費用合計	225	215
経常利益	3,910	3,216
特別損失	246	256
減損損失	246	250
法人税等	363	672
法人税、住民税及び事業税	157	147
法人税等調整額	205	525
親会社株主に帰属する当期純利益	3,319	2,299

Point

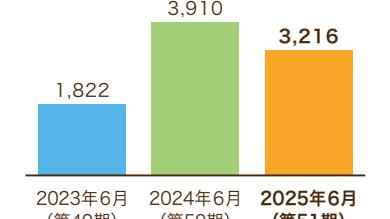
売上高

売上高は、前期比5.4%増加の69,551百万円となりました。

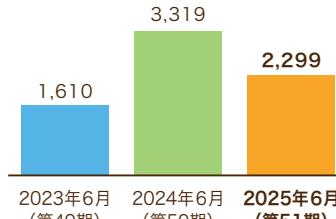
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する純利益



※金額は百万円未満を切捨表示しております。

Point

投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは前期比2,060百万円減少して△3,954百万円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出△3,018百万円、投資有価証券の取得による支出△1,005百万円、敷金及び保証金の回収による収入30百万円、その他44百万円であります。

Point

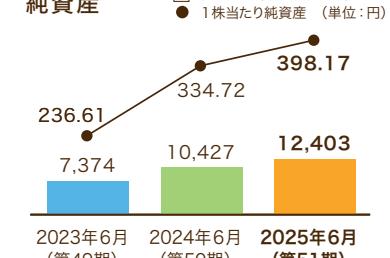
営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前期比2,449百万円減少して3,717百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、税金等調整前当期純利益2,981百万円、減価償却費1,776百万円、棚卸資産の増減額△408百万円、未払又は未収消費税等の増減額△666百万円であります。

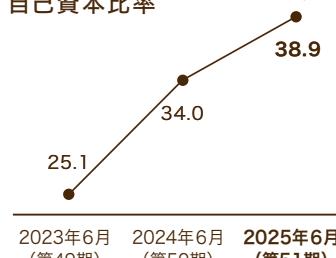
総資産



純資産



自己資本比率



■ 純資産 (単位:百万円)
● 1株当たり純資産 (単位:円)